

取組事例の名称		平成23年度 久喜漁港浮き棧橋応急災害復旧工事
概要	対象	浮き棧橋
	種別	<input type="checkbox"/> 救援 <input checked="" type="checkbox"/> 機能回復 <input type="checkbox"/> 新・増設 <input type="checkbox"/> 復興 <input type="checkbox"/> その他 ()
	規模	浮体 (L=40.0m×B=11.0m×H=1.85m、W=586 t) 1 函を補修した後 再据付する。 浮体補修は、ケーソン製作台船 (DD7,000t) に搭載して陸上で施工する。
	実施会社	大豊建設株式会社 東北支店
	実施場所	岩手県久慈市
	発注者	岩手県 県北広域振興局水産部

1. 工事等取組の目的及び概要と採用した技術名称

概要：津波により被災した久喜漁港浮き棧橋を原型復旧する工事。浮体は補修して再利用する。

技術名称：ケーソン製作台船 (DD7,000t) による搭載補修

内容：被災した浮体は傾いて浮いている状態であり、側面、底面が損傷して漏水している箇所があることから陸上で補修した後、再使用する。

2. 当該技術を採用した理由、当該技術に期待した成果

理由：浮体補修は、岩手県内の上架斜路、係留施設が被災して使用できないことから、協議の上、青森県むつ市大畑町に在籍してあるケーソン製作台船 (DD7,000t) を使用することとした。

成果：ケーソン製作台船に搭載してドライの状態での破損状況を詳細に点検し、補修ができたため、耐久性の高い補修ができ、また工期も短縮が図れた。

(写真、イラスト)



浮体上架 (DD7,000 t)



浮き棧橋復旧完了

取組事例の名称	平成23年度 久喜漁港浮き棧橋応急災害復旧工事
<p>3. 工事等の実施に当たっての課題や留意した事項、苦労した事柄・教訓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 万が一、地震・津波が発生した場合に備え避難場所と避難経路を作成し、全作業員に周知させた。また避難訓練を実施し、連絡体制、経路の確認、修正を行った。 ・ 浮体を上架してみたところ、底面の破損が著しく、鋼殻部まで裂傷している部分もあり、水密性の高い断面修復に苦労した。 	
<p>4. 実施後の成果に対する発注者や地元住民等の評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 被災した浮き棧橋を再使用できる状態に復旧することができ、発注者及び地元住民より感謝された。 ・ 浮き棧橋を供用後、すぐにあわび漁の係船及び物揚げ場として活用され、地元で活気が戻る足掛かりになった。 	
<p>5. 採用した技術に対する改善点、望まれる技術</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 浮体を上架した架台は、高さ2.0m程度であったため、底面のコンクリート取壊しから補修まで、上向きの人作業が多くなり、首、肩の疲労が作業員に蓄積し交代しながら施工を進めた。 <p>改善点として、重機での取り壊しが効率的となるような、架台等を考案する必要がある。</p>	
<p>6. 今回の取組を通じ、将来の災害対応の為に準備すべきと感じた事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 近接した工事業者と協議会を立ち上げ、互いに連携をとりながら円滑な施工をすすめる必要がある。 	
NETIS登録	